目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第74号　2017年3月

発行人：吉田　博行　編集長：田島　順一郎　事務局長：安藤　孝

事務局：〒152-0002　目黒区目黒本町6-4-16　Tel 03-3716-7477

2017年新年会を開催

2017年目黒稲門会新年会は、1月15日（日）午後4時から目黒雅叙園にて開催され、会員・ご家族75名、来賓4名、招待現役学生2名、計81名が参加した。

笠谷興一朗幹事の司会で、第1部講演会では小堀　守氏（日本政府観光局理事）を講師に招き、「訪日外国人旅行者4000万人に向けて」と題した講演が行われた。小堀氏のニューヨーク、ロンドンに駐在した経験に基づく国内外の観光振興のエピソードを拝聴した。（講演要旨後述）

小堀氏への質疑応答の後に場内は休憩に入った。

午後5時からの第2部懇親会は、再び笠谷幹事の司会により、吉田会長から新年の挨拶があった。

（会長挨拶要旨）

「皆様、明けましておめでとうございます。

母校・早稲田大学は「Waseda Vision150」の実現を目指し教育改革、研究力の強化、校友・社会と連携した事業等、大学運営の大改革を推進しています。あの記念会堂は、「早稲田アリーナ」としてスポーツミュージアムや学習スペースなども併設した多機能型スポーツ施設に変貌します。我々は母校の活動に微力ながら出来る限りの応援をしてゆきたいと存じます。

会員の構成年齢が毎年上がっています。口コミの勧誘が一番効果があります。会の発展のためにもご協力宜しくお願い致します。

おわりに、会員とご家族の皆様のご健勝と、ご多幸をお祈り致しまして新年のご挨拶と致します。」

続いて、来賓の岡本宏一・早稲田大学総長室長、青木英二・目黒区長から挨拶があり、岩崎正夫幹事の発声で乾杯、歓談となった。

歓談中、現役学生が紹介され、深澤真由子さん（先進理工学部4年）、前田　眸さん（社会科学部3年）から挨拶があった。

左：前田さん　右：深澤さん

新年会初参加の橘　かがり会員、奥村忠男会員が紹介され、挨拶をおこなった。

左：橘会員　右：奥村会員

その後、井村副会長から東京都23区支部大会の案内、金井副幹事長からボランティア活動への賛助要請、中西元樹・若木会部会長から昨秋の目黒シティラン参加が報告された。

本年、米寿を迎えられる荒瀬修一郎会員、島田久家会員に花束が贈呈された。

新年会の締めくくりは都の西北。松田哲也会員のリードで大きな輪になっての校歌斉唱。

中締め挨拶は、岩崎春雄幹事。講師、参加者への謝辞を述べ、予定時間通り閉会となった。　（笠谷　記）

（小堀　守氏講演要旨）

今やインバウンド（訪日外国人旅行者）という言葉が定着しており、流行語大賞にもなった。インバウンドの数は2011年には東日本大震災で、前年の860万人から630万人に落ち込んだ。それが、2016年には2,400万人と急成長をとげた。この大きな理由はアジアの経済力向上にある。とはいえ、2,400万人は世界で16番目にすぎない。8,000万人台のフランス、アメリカ、中国が観光大国となっている。

外国人旅行者は平均して日本に6泊し、約20万円を消費、金額の合計は3兆4,700億円（2015年）になる。2020年には人数を4,000万人にして、金額を8兆円にするのが目標だ。我々は全省庁、全都道府県と連携してこの目標に取り組んでいる。

インバウンドで最も多いのは中国人の630万人だが、中国人の出国者は1億2,000万人もいる。中国の人口13億のわずか0.5％しか日本に来ていない。インドの人口も13億ある。その1％が日本に来てくれれば、優に1,000万人を超すことになる。インドからの招致をめざしてデリー事務所の開設準備を進めているところだが、多種な言語、多様な食習慣があり、日本に来てもらうにはなかなか難しい面がある。今、欧米からのインバウンドの9割は個人旅行者で、6割がリピーターである。それを支えているのがITで、彼らはネットで予約し、日本に来てからもスマホを駆使して情報の収集をしている。そこで重要になるのがWi-Fi網の整備だ。3年前から力を入れており、だいぶ改善されたが、まだ韓国、シンガポールに及ばない。また彼らは日本で母国の友人・知人へSNSで情報発信をしている。栃木県に「あしかがフラワーパーク」というのがあるが、外国人の来園者が飛躍的に増えた。「ここの藤は世界一だ。ぜひ見るべきだ」と発信されたことが大きい。

インバウンドを増やすのには、このような口コミが非常な威力を発揮する。

2020年のオリンピック・パラリンピック時には50万人以上が来日すると予測されている。彼らが最初に日本に到着するのが空港だが、政府は入国審査を20分で終えることを目標にしている。また、宿泊するホテルのフロントの英語力はこの5年で大きく向上した。今やホテルや航空会社だけでなく、鉄道会社、レンタカー会社、飲料会社がインバウンド対策に取り組んでいる。人口、利用者が減っていく中で、外国人旅行者を取り込まなければ成長が見込めないからだ。

「おもてなし」は精神論だけではなく、外国人旅行者が何を求め、何に困っているのかを理解し、最低限のことをしてあげられることだと思う。このような本当の意味での観光立国をめざしていきたい。

新年会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）
青木英二・目黒区長
小堀　守・講師　日本政府観光局理事
岡本宏一・早稲田大学校友会常任幹事兼総長室長
梅原竜司・早稲田大学校友会事務局長
（招待現役学生）
深澤真由子（先進理工学部4年）
前田　眸（社会科学部3年）
（会員・ご家族）
朝比奈義雄、荒瀬修一郎、安藤　孝、安藤虎雄、
安藤嘉昭、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤　悠、
稲垣博信、稲垣令夫人、猪名川一雄、井村正陽、
岩佐好恭、岩崎春雄、岩崎正夫、岩田　修、
鵜野洋治、海口昭治、大内秀明、大久保健治、
大久保令夫人、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、
奥村忠男、小倉利允、笠谷興一朗、梶　恵作、
柏木　博、金井豊男、狩野俊夫、川井信義、
川崎真樹子、郡山弘文、郡山令夫人、小杉　哲、
後藤克彦、佐久間　喬、澁谷瑠璃、嶋田勝彦、
島田久家、高野　孝、高橋圭吾、高橋真美子
田添麻友、堀合　努（田添）、堀合義統、堀合摩利、
堀合将統、橘　かがり、田畑　繁、地田博昌、
千野逸平、手塚仁雄、外岡　明、中上美代子、
永田耕治、中西元樹、成田隆一、服部尚彦、
林田雅敏、牧野武夫、松田哲也、眞仁田　勉、
丸山忠生、宮村直身、村上　柾、村山　弘、
保井　正、吉田博行、吉田令夫人、吉野博明、
吉本政治、吉本令夫人

各部会からの案内・報告

早稲田スポーツ観戦部会

2016ラグビー早明対抗戦観戦記

12月4日（日）秩父宮ラグビー場で行われた伝統の関東大学ラグビー対抗戦早稲田大学―明治大学を14名の会員と応援観戦に行きました。今シーズン帝京大学の優勝が既に決まり1敗同士の2位決定戦となった伝統の一戦、前半を10－10で折り返した両チームは後半になっても競り合いが続き我々観客にとってはスリルのある見応えのある試合となりました。結果は後半32分早稲田の中野将伍のトライでようやく勝ち越し、明治の執拗な攻撃を何とか守りきった我が早稲田が24－22で勝利しました、最後まで目の離せない戦いでした。試合終了後、馴染みの渋谷のパンダレストランで早稲田の勝利を祝福し、来シーズンの更なる活躍を期待しながら美味しい料理と美酒をいただきました。

早稲田スポーツ観戦部会長　狩野俊夫

囲碁部会

「定石」を覚えて二目弱くなりと言われますが、実践を数多くこなして棋力の向上を図るのが早道と思います。囲碁部会はその一環として活動しています。平成29年の日程は下記の通りです。注意点は4月より「第3木曜日」に変更になることです。

囲碁部会　平成29年日程

1月20日（金）、2月17日（金）、　3月17日（金）
4月20日（木）、5月18日（木）、　6月15日（木）
7月20日（木）、8月　　休会、9月21日（木）
10月19日（木）、11月16日（木）、12月21日（木）
（月例会開催場所：下目黒住区センター3階）
6月3日（土）　第17回オール早稲田囲碁祭（＊）
9月17日（日）　第17回稲穂囲碁会（＊）
12月2日（土）第56回オール早慶囲碁（＊）
（＊）於　日本棋院

囲碁部会長　　保井　正

美術・歴史鑑賞部会

第61回は11月16日（水）に上野公園にある東京都美術館入口前に10時集合（参加者11名）で『ゴッホとゴーギャン展』を鑑賞。当日はシルバー・デーにより65歳以上無料となりました。

フィンセント・ファン・ゴッホ（1853年～1890年）の「パイプをくわえた自画像（ファン・ゴッホ美術館）」、「自画像（クレラー＝ミュラー美術館）」、「恋する人　ミリエ少尉の像（クレラー＝ミュラー美術館）」、「ゴーギャンの椅子（ファン・ゴッホ美術館）」。ポール・ゴーギャン（1848年～1903年）の「夢を見る子供　（オードロップゴー美術館）」、「自画像（キンベル美術館）」、「タヒチの3人（スコットランド国立美術館）」の名作約60点を鑑賞しました。

鑑賞後は上野公園内にある旦妃楼飯店でランチコースを食べました。

第62回は11月30日（水）に南青山にある根津美術館入口に10時30分集合（参加者12名）で『円山応挙－「写生」を超えて－根津美術館 開館75周年記念特別展』を鑑賞しました。

円山応挙（1733年～1795年）は、京都で活躍した日本画の巨匠。近現代の京都画壇にその系統が続く「円山派」の祖。写生を重視した親しみやすい画風が特色で、諸説があるが足のない幽霊を描き始めた画家と言われている。

超絶的で多彩なテクニックの「写生」により日本絵画史に革命を起こした画家・円山応挙の作品を鑑賞しました。

美術館近くの古き良き時代のモダンチャイニーズを感じる中華料理（上海料理）のダイニズ・テーブルでランチを堪能しました。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

ウォーキング部会

今年は酉年、騒がしい年といわれていますが、我々は皆様と一緒に健康に注意して楽しく歩きましょう。

特に今年は初参加、女性の方を増やしていこうと考えておりますので周りの方にも声をかけていただきたくお願いします。

活動報告と今後の予定をお知らせいたします。

実施報告

11月例会　狭山湖から多摩湖経由西武園まで
日時　11月15日（火）参加12名

12月例会　目黒寺町巡り
日時　12月20日（火）参加20名

1月例会　七福神巡り　人形町
日時　1月6日（金）参加17名

今後の予定

2月例会　等々力渓谷から九品仏まで
日時　2月21日（火）午後1時
集合場所　東急大井町線等々力駅改札外

3月例会　武蔵野三十三観音めぐり第3回
日時　3月21日（火）午後1時
集合場所　西武新宿線東村山駅改札外

4月例会　渋沢丘陵から震生湖まで
軽ハイキング　約7.5キロ
日時　4月18日（火）午後1時
集合場所　小田急線秦野駅改札外

小雨決行　参加される方は下記まで連絡下さい
牧野携帯　090-9649-6868

ウォーキング部会長　牧野武夫

麻雀部会

2月20日（月）定例部会が武蔵小山　サンにて開催。

4月17日（月）定例部会が武蔵小山　サンにて12時30分より開催されます。奮ってご参加ください。

麻雀部会長　鵜野洋治

俳句部会

第91回　萩句会報告
日時 2017年1月9日（月）14時～17時

（順不同）

川井素山	松取れてまだ墨堤の芽の固し
保井寶正	筆架揺れ磨る青墨の淑気かな
青木英林	霜柱蹴散らす時は子に戻る
後藤克彦	ゆく年やあと一本の徳利酒
佐久間喬	七草の名前そらんじ競ふ子等
丸山酔宵子	篝火に浮ぶ巫女の手初神楽
菊地崇之	松取れて妻自由なり家事親父
牧野里山	初詣木立にじます日の光
佐久間たか子	顔で受け背で受けての焚火かな
佐伯兵庫	七草の絵図をにらみて田んぼ道
吉田啓悟	それぞれの子等の去りゆく三日の夜
山本草風	数へ日や不孝者なる墓掃除
金森純女	福寿草露店の闇を照らしけり
渡辺鯨波	松とれて無聊をかこつ老教師
澁谷瑠璃	七草に入れてもらへぬもの咲ける
石川智子	七草を吹く静けさや湯気の中

今月は女性のメンバー3名及び男性メンバーが主宰を含め3名計6名の方が和服で参加され正月らしい句会となりました。

俳句部会長　佐久間 喬

カラオケ部会

目黒稲門会のカラオケ部会は目黒稲門会の設立当初に遡ること17年余、1999年（平成11年）から先輩方が苦労して築いてきた伝統ある部会です。

1999年は通信カラオケが本格的にスタートした頃でその後、映像の進化と共に動画や字幕（歌詞）スーパーがモニターに映し出されるようになりました。古い時代のカラオケは酒席のつまみ位に歌っていましたが、今のようなカラオケボックスができてから純粋に歌を楽しむ人が増えてきました。懐かしい歌から最近の歌まで広いカラオケルームで食事をしながら自由に和気藹々と歌えるのが魅力です。定例会は毎月第2金曜日、コートダジュールで開催しています。なお、昨年9月から定例会の場所をコートダジュール目黒駅西口店から同学芸大学店に変更しました。

最近の参加者数は2016年9月が14名、10月が12名、11月が10名、12月が14名、2017年1月が11名という状況です。

カラオケ部会長　梶　恵作

旅行部会

オホーツク海絶品グルメの旅

小杉　哲（昭和41年　理工）

旅行部会は1泊2日でオホーツク海絶品グルメの旅を会員とその家族15名でクラブツーリズムの企画を一部買い取る形で実施しました。

勤労感謝の日の2016年11月23日10時半羽田空港に予定通り全員が集合した。当日は強い寒気が日本列島上空に入り、北海道は大雪となった。思わず、2013年1月25日～26 日の旅行部会旅行『厳冬の北海道オホーツク海を望む一泊二日の旅』で飛行機が雪のため欠航となり、新千歳空港から6時間もかかってバスで紋別市にたどり着いたことを思い出した。我々の便は11時20分発のオホーツク紋別空港行だが、『場合によっては羽田に引き返す』との空港内アナウンスもあり、実際隣のカウンタの釧路行きは欠航となっていた。1時間遅れで出発したが、紋別空港は強い吹雪で着陸直前の機体の揺れには皆が驚いた。飛行機のタラップからターミナルビルまで約100m歩く間も地面を這うような吹雪にたじろいだ。今回は無事紋別に着けたが、後で井村旅行部会長の奥様に聞いた話では、紋別に行けなかった場合に熱海温泉や横浜中華街へ行く代案を部会長は羽田空港出発前に検討していた由。いつもながら部会長のご苦労には頭が下がる。

空港から宿泊地の猿払村までは我々を含む40名の貸切バスで絶景のオホーツクロードを約3時間。途中流氷岬に立ち寄ったが、流氷を見られるのは1月下旬以降とのこと。宿泊は猿払村唯一のホテルである「ホテルさるふつ」。今回の旅行の目玉はグルメで、夕食は毛ガニ1杯、ズワイガニ半身、タラバガニむき身のカニ満喫御膳と肉厚天然ホタテ、宗谷牛と超デラックス。毛ガニの食べ方をホテル支配人が説明しにきたが、自分の分の解体を支配人にお願いして楽をしたつわものも居た。猿払村は最北の地稚内市の南東でオホーツク海に面し、北海道の村で一番大きく、ホタテの水揚げは日本一。『貧乏見たけりゃ猿払へいきな』と言われた村が、ホタテの稚貝放流で豊かなオホーツク地域づくりのリーダーとなり北海道で一番豊かなところになった（税務署が集計する納税義務者1人当たりの所得）。夕食後無料のカラオケルームに移動して得意な歌を披露しあったが、我々の貸切状況であった。

朝食はイクラを自分でかけ放題の丼。ホテルの人の話では、今年はサケが不漁でイクラの値段が異常に高くて困っているとのことだったが、それを無視し空になったボールに追加のイクラをお願いして2杯目の丼にイクラを山積みするつわものも居た。また、猿払村村営農場の牛乳の濃厚さはまるでクリームみたいであった。

8時にホテルを出発し、ラムサール条約にも指定された湖で白鳥の飛来地でも有名なクッチャロ湖、紋別市ゴマちゃんランドでのゴマフアザラシショー、オホーツク流氷科学センターでのマイナス20℃の厳寒体験や氷漬けにしたオホーツクの魚等いろいろ見学し、予定時刻に紋別空港に到着した。しかし今度は東京が54年ぶりとなる11月の初雪。羽田・紋別便は1日1往復で、無論予備機など無く羽田発が欠航となれば紋別でもう一泊だとバスガイドに驚かされた。幸い1時間遅れで羽田にたどり着いた、グルメと雪を満喫（振り回された）楽しい旅行でした。井村部会長はじめ皆様に大変お世話になりました。

地吹雪の紋別空港

ホテルさるふつ

氷漬けのオホーツクの魚

会員の広場

見えないリボンをかけて

澁谷 瑠璃 [redacted]

秋から冬へと季節が変わる頃、とある先輩から薔薇のプレゼントをいただいた。

色はおそらく、グラスいっぱいに注がれた濃密な赤ワインと同じ色。茎もよほどの事では折れない位しっかりしていて、間違えて棘をさわってしまうものなら、容赦なく人差し指に突き刺さる。きっと、そんな薔薇であったように思う。この薔薇には、影も形もないのだ。よって見ることもさわることも、香りを嗅ぐこともできない。その正体は、“俳句”という十七文字の言葉の中に閉じ込められた、透明だけど確実にそこにある、薔薇のプレゼントであった。

冬薔薇若き繪かきに香気あり　寶正

冬の薔薇、と書いて“ふゆそうび”と読む。字の通り冬の季語。俳句を始めたばかりの私にとって、フユソウビという聞き慣れない日本語に初めて出会った瞬間だった。

ちなみに“薔薇の芽”は春の季語。薔薇は3月になると、芽が動き出すことから。単体の“薔薇”は夏の季語。薔薇の最盛期は5月から6月頃と言われている為である。しかしそうは言っても薔薇なんて一年中花屋さんに売っているし、わざわざ冬の薔薇と限定する意味すらもよくわかっていなかった。

ちょうどそんなことを思っていたとき、テレビでバラ園の映像が流れているのを見た。冬に咲く薔薇たち。冷たい空気を吸いながら、しっかりと地に根を張っている。バラ園の人は言う。夏の薔薇に比べて、冬の薔薇は厳しい環境で咲くからこそ3倍長持ちする、と。

ただの薔薇ではなく、冬の薔薇と限定する理由はそこにあったのだ。私は夏の薔薇ではなく、冬の薔薇になりたい。3倍息の長い画家になりたい。たとえ厳しい環境に身を置かれたとしても。

十七文字の言葉の贈り物から、想像を巡らせたストーリー。服やアクセサリーや化粧品のようなプレゼントも悪くはない。しかし私がほしいのは、貰い手すらも触れることの出来ぬ、言葉のようであった。お金を払えば誰でも買える物であるなら、その人から贈られる必然性に少し欠ける。お金を払っても買うことが出来るとは限らず、その人にしか作り得ない“なにか”をいただけたら、それはとても幸せなことなのだと思う。言葉でも、思い出でも、きっとそれは好きな形で良い。

もらってばかりでは恐縮なので、次は私がプレゼントをする話。私だったら、何を贈るだろう。少しも考える間もなく、絵という結論にたどり着く。

絵が他の一般的な贈り物と違うのは、描いているときには絵の持ち主になるであろう人の顔がわからないという事。もちろんオーダーを承って描く場合もあるが、一般的には自分の中でのテーマで描くことが多い。よって、誰に届くかわからぬままに絵は描き進められてゆく。完成して無事世に出ることができたら、どこかのタイミングでその絵に出会った人の中の誰かの手に渡ることになる。

もちろん、すべての絵が常に誰かの元へゆく確証はない。がしかし、それでも絵を描いている時は、どの絵にもまんべんなく心からの想いを込めて描いている。その想いが、愛が、どう伝わるかは人それぞれだろう。いくら作り手が心を込めて形にしたとしても、愛を強制してはいけない。時間をかけて描けば描く程思い入れは強くなるが、作品が完成して作者の手を離れた瞬間、すべては受け手に委ねられるのだ。私には、そんな形のプレゼントしかつくることができない。

しかし実は誰かのための絵を描きながらも、その過程は、なにものにも代え難い自分へのプレゼントのようでもある。絵の構想を考えながら旅しているとき、構図を決めるとき、絵具を混ぜて新しい色をつくるとき、そんなすべての瞬間が、私にとっては贈り物のようでもある。だからこそ、絵が完成してしまったら自分の手元には置いておきたくなくなるのだ。絵が出来上がるその瞬間までは私だけに贈られた時間であり、完成した絵はもう私のものではなくなる。

これから何年経ったとしても、何十年経ったとしても、きっと描いても描いても飽き足らず、悩みながらも筆を動かし続けるのだろう。私の絵が、たった一人のだれかにとっての最高のプレゼントになることを夢みて。

「けむりの栞」　2016年　298 × 455mm
板にテンペラ • 油彩

第1回 目黒シティラン参加記

中西元樹　（平成16年　法）

目黒区主催の第1回目黒シティランが2016年11月27日（日）に開催されました。

目黒稲門会若木会は、スポーツ観戦部会のご支援のもと、本イベントに向けて参加者を募り、事前練習会を複数回設定し、当日シティランにご参加する先輩のみならず、当日はご参加せずとも、応援していただける先輩方にもご参加いただいたうえで和気あいあいと実施いたしました。そして、皆さまの温かいご支援のおかげで、大きなけが人が出ることなく、本番の日を迎え、参加者の半数以上が完走することができました。

第2回目黒シティランも計画している旨の青木区長のお話しがありましたので、第2回実施を想定したうえで来年も参加できるように調整していきたいと考えております。

今回のイベントは目黒稲門会諸先輩方の多大なご支援を基に成功いたしました。本当にありがとうございました。

【練習会概要】

・6月26日（日）打合せ兼第1回練習会
　目黒川の田楽橋から新橋までの往復2kmのコース
・7月24日（日）　第2回練習
　目黒川の田楽橋から新橋までの往復2kmのコース
・8月26日（日）　第3回練習会
　目黒川の田楽橋から新橋までの往復2kmのコース
・9月25日（日）　第4回練習会
　目黒川の田楽橋から新橋までの往復2kmのコース
・11月6日（日）第5回練習会
　目黒川の田楽橋から新橋までの往復2kmのコース
・11月20日（日）第6回練習会（補講）
　本番コースのリハーサルとして目黒区役所から環状七号線までの往復約5kmのコース

【シティラン　目黒稲門会参加者結果】

氏　名	種　目	総合順位	備考
髙橋　圭吾	10km 一般	1184位	※1
山口　優幸		1386位	※1
蠣﨑　利郎		1356位	※1
笠谷　興一朗		1475位	※1
村上　柾		1681位	※1
吉田　博行		－	※2
狩野　俊夫		－	※2
中西　元樹		－	※2
石川　智子		－	※2
渋谷　瑠瑞	2.5km	－	

※1　10km 総合男子
※2　目黒通り都立大学駅前交差点まで走破

会員ギャラリー

「死の樹海」 水墨画　F6号

牧野武夫　（昭和40年　理工）

2015年1月、17回で富士山のすそ野を一周するウォーク・ツアーに参加、2016年2月の15回目に青木ヶ原樹海を散策しました。この時に出会った風景を水墨画作品にしたものです。

樹海は、約1,200年前の富士山噴火による溶岩流の上に形成された原生林で、林床の草木やコケ植物も発達して独特の景観をつくっています。深い森は小動物、鳥類、さらに昆虫類など生物の格好のすみかともなっています。雪により多くの生命は確認できませんが「死の樹海」は、実際は「生命の宝庫」となっています。

新入会員

橘　かがり（昭和57年 文）（目黒区駒場在住）

趣味：香道、煎茶道、バレエ鑑賞、歌舞伎鑑賞

2003年に小説現代新人賞受賞後、戦後史を中心にノンフィクションノベルを執筆しております。どうぞよろしくお願い致します。

小岩一郎（昭和57年 理工）(目黒区上目黒在住)

趣味：囲碁、読書

(会員勧誘)年賀状を頂き、入会を希望しました。

人生の大部分を目黒で過ごしております。生まれも目黒区です。よろしくお願い致します。

目黒稲門会新年会講演会の足跡

＊平成13年1月14日（会報 Express 第6号）
- ・ジャップ・ミカドの謎
- ・ノンフィクション作家　佐山和夫

＊平成14年1月14日（会報 Express 第9号）
- ・後藤新平と東京
- ・元東京都副知事　青山やすし

＊平成15年1月12日（会報 Express 第12号）
- ・日本童謡の歴史と役割
- ・音羽ゆりかご会　海沼　実

＊平成16年1月11日（会報 Express 第15号）
- ・ミケランジェロ・ルネッサンスの巨人
- ・イタリアルネッサンス美術史家　青木　昭

＊平成17年1月10日（会報 Express 第18号）
- ・東京の歩み一明治初期を中心に
- ・目黒稲門会初代会長　眞仁田　勉

＊平成18年1月9日（会報第30号）
- ・帝国日本の興亡
- ・評論家　粕谷一希

＊平成19年1月8日（会報第34号）
- ・早稲田人の心の原点“都の西北”
- ・早稲田大学第14代総長　奥島孝康

＊平成20年1月12日（会報第38号）
- ・洋画の翻訳現場の楽しい裏話・・此処だけの話
- ・目黒稲門会幹事　岩佐幸子

＊平成21年1月17日（会報第42号）
- ・吾、基より生還を期せず　学徒出陣
- ・目黒稲門会相談役　阿部喜久雄

＊平成22年1月16日（会報第46号）
- ・その時歴史が動いた - 取材ノート
- ・元NHKアナウンサー　松平定知

＊平成23年1月16日（会報第50号）
- ・早稲田大学栄光のラグビー - 勝ち続けるためには
- ・早稲田大学ラグビー蹴球部監督　清宮克幸

＊平成24年1月15日（会報第54号）
- ・バブルの崩壊はあるか - 転機に立つ中国経済
- ・北京大学客員教授　西園寺一晃

＊平成25年1月20日（会報58号）
- ・目黒稲門会　河村晋彦　落語「目黒のさんま」他

＊平成26年1月19日（会報第62号）
- ・民間から見た教育現場
- ・湘南教育研究所代表　熊谷和久

＊平成27年1月18日（会報第66号）
- ・早稲田大学応援部の裏話
- ・早稲田大学応援部監督　竹沢久喜

＊平成28年1月17日（会報第70号）
- ・歌と人と - 早稲田大学応援歌・学生歌を作詞して
- ・早稲田大学OB　岩﨑 巖